

件名：原発からの撤退及びエネルギー政策の見直しを政府に求める意見書の川越市議会での採択を求める 請願書

趣旨：3月11日の東日本大震災によって、引き起こされた福島第一原発の事故は、国民の前にその危険性を明らかにしました。「レベル7」に達した事故現場は今もなお不安定な状況が続いています。これまでの放射性物質の拡散量だけでも、地域の住民や労働者ばかりか、まだ生まれていない将来の子どもたちの健康と生命にとっても、計り知れない悪影響を与えると考えられます。

現在の原発の技術は本質的に未完成で、きわめて危険なものです。原発は莫大な放射性物質（死の灰）をかかえています。それをどんな事態がおきても閉じ込めておく完全な技術は存在しません。そうした原発を、世界有数の地震・津波国であるわが国に、集中的に建設することは危険きわまりないことです。

原子力発電所の事故は川越市民にとっても他人事ではありません。狭山茶の放射能汚染、農作物の風評被害など、現在ある原発で大地震・津波にみまわれ、そのために今回以上の被害を被る可能性がないと断言できるものは一つもありません。

既に世界では、原子力発電から脱却し、太陽光をはじめ地熱、風力、波力、バイオマスなどの自然エネルギーへの転換が図られています。日本の自然エネルギーの技術は世界有数のレベルであると聞いています。にも係わらず日本のエネルギー政策は大きく立ち遅れています。

私達は、今回の事故を教訓とし国のエネルギー政策を抜本的に転換しなければなりません。以上をふまえて、川越市議会が政府に対し、原発からの撤退及びエネルギー政策の見直しを政府に求める意見書を提出することを求めます。